

淡いピンクの

佐野 もあこ

「あっ」

わたしの心は一気にあかるくなった。

朝からあなたと会えて。

「先生！」

「おお、おはよう」

「先生、今日わたしのクラス授業ありますよね！」

「えーっと...」

「2限目ですよ！」

「あー、そうだっけか」

「わたし先生の授業好きだから覚えてるんです」

「ほんとに？ありがとうございます」

先生は照れたように笑って頭の後ろに手をまわした。

「あの、先生」

後ろから女の先生が来た。

この人は、先生と噂がある人で。

「はい？」

明らか先生の顔が嬉しそうにゆがんで。

「会議ですよ」

女の先生もニコッと幸せそうに笑って。

「あーっ、忘れてた！ありがとうございます」

「先、行ってますね」

女の先生はどっかに行った。

「先生」

「ん？」

「...あの人と付き合ってるの？」

「...え？」

「んふふ、なんでも、ないです。会議なんですよ、引きとめてごめんなさい」

「あっいや...大丈夫だよ。じゃあ行ってくる」

先生は行ってしまった。

その背中に呟いた。

「お幸せに」

その言葉に小さな嫉妬を隠しながら。